

マテリアリティ

プラスチック容器包装

■ ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループでは、近年社会問題になっている、プラスチックごみによる環境汚染や資源循環に関する課題への対策として、環境配慮型容器包装の基礎技術の確立を目指しています。資源循環しやすい素材への転換を進めながら、プラスチック製容器包装による環境負荷の低減を図ります。また、容器包装のプラスチック使用量の削減やプラスチック容器包装のリサイクルの高度化等の取り組みについて、定量目標に基づき、これまで以上に推進していきます。

■ リスクと機会

リスク	機会
● グローバルなプラスチック規制強化やエシカル消費拡大への対応コストの増大 ● 取引先および消費者の脱プラスチック志向拡大による販売機会の喪失 ● プラスチックの市場縮小や環境配慮素材への需要集中による調達リスク	● 容器包装の環境配慮素材への切り替えによる企業価値の向上 ● 共同研究推進によるイノベーション創出 ● 環境配慮型商品の導入による新規顧客の創出

■ 方針・ガイドライン・目標

- ヤクルト環境基本方針
- プラスチック資源循環アクション宣言
- 環境ビジョン2050
- 環境目標2030
- 環境アクション(2021-2024)



■ 行動目標と実績

行動目標	実績
● プラスチック製容器包装の使用量(国内)を、2024年度末までに2018年度比5%削減あるいは再生可能にする ● 容器包装の資材使用量を削減 ● 容器包装の素材変更により環境負荷を低減 ● 容器包装に植物由来の環境にやさしい素材を使用	▶ プラスチック製容器包装使用量【速報値】約6%増加見込み(再生可能でないもの)(2018年度比) ▶ 「Newヤクルト」シリーズ品5本パック単式ストローの貼付を廃止 ▶ 清涼飲料用PET容器向けシュリンクラベルについて、バイオマスインキ(5品目)、再生PETラベル(3品目)および薄肉OPSラベル(4品目)の使用を拡大 ▶ 清涼飲料用PET容器向けキャップについて、軽量キャップ(4品目)に使用を拡大 ▶ 化粧品部門の商品3点に再生(リサイクル)PETを採用

■ 課題と対策

ヤクルトグループは現在、約13,000tのプラスチック容器類を使用しています。プラスチックごみによる環境汚染問題や資源循環の観点から、容器包装の資源循環しやすい素材への転換が喫緊の課題です。容器包装の薄肉化や軽量化に加えて、バイオマス化等持続可能な資源循環に適した素材への転換を進め、プラスチック製容器包装による環境負荷の低減を図ります。また、世界各地でプラスチック製品の使用を規制する動きが活発化しているため、各国・地域の規制を注視しながら、具体的な対応策の検討を進めます。

プラスチック資源循環アクション宣言

1995年に容器包装の安全性の確保、包材使用量の抑制、処理・処分の適正化、再生資源利用の促進を基本要件とした取り組みを具体化するためのガイドラインを定めて、より環境負荷の少ない容器包装を設計するように努めてきました。また、海洋プラスチックごみ、温暖化、資源の枯渇等の問題を重視し、プラスチック製容器包装の資源循環に積極的に取り組み、2019年1月には、「プラスチック資源循環アクション宣言」を発表しました。

プラスチック資源循環アクション宣言(概要)

●ヤクルトグループは、プラスチック製容器包装の資源循環を推進する取り組みを行います。

ー2025年目標ー

環境配慮型容器包装の基礎技術を確立したうえ、資源循環しやすい素材(バイオマス素材、リサイクル素材、生物分解性素材等)への転換に着手します。

ー2030年目標ー

循環資源市場や環境インフラ等の外部環境の整備状況と連動しながら、資源循環しやすい素材へ最大限の転換を図ります。

●容器包装へのプラスチック使用量の削減や、生産工程で使用するプラスチック製梱包材の再使用等の取り組みについて、これまで以上に推進し、資源循環に向けた取り組みを積極的に進めていきます。

プラスチック資源循環推進体制

■ プラスチック資源循環推進委員会

生産本部長(取締役専務執行役員)を委員長とし、プラスチック製容器包装に関わる部署管掌の役員によるプラスチック資源循環推進委員会を設置しています。

原則年に2回、半期ごとに開催され、世界のプラスチック規制や関連政策の動向、各部署における取り組みおよび検討の状況に関する情報共有ならびに討議を行っています。本委員会を取り上げた事項のうち、経営政策に関わる重要事項については、経営政策審議会に諮る手順をとっています。

特定プラスチック使用製品※の使用削減

ヤクルトグループは、お客さまに提供しているスプーンをプラスチック製から紙製へ一部移行する等、使い捨てプラスチック製品の使用削減に取り組んできました。

2022年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に則り、プラスチック製のスプーン・ストローの使用量をより一層削減するため、2022年度の目標を定めるとともに、次の取り組みを行います。

①ヤクルトレディによる商品販売時のスプーン・ストローの提供は、原則として取りやめる(商品設計上付帯しているストローは除く)

②スプーンは、可能な限り紙製とする

③ストローは、植物由来のプラスチックを配合したものとする

※ 特定プラスチック使用製品：「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」において定められた「商品の販売又は役務の提供に付随して消費者に無償で提供されるプラスチック使用製品」12品目(フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー、ストロー、ヘアブラシ、櫛、剃刀、シャワー用のキャップ、歯ブラシ、ハンガー、衣類用カバー)をいう。

特定プラスチック使用製品提供量の推移

年度	2018	2019	2020	2021	2022*
提供量(t) (バイオマスプラスチックを除いた量)	89.3	80.1	60.5	52.8	30.0
前年比(%) (バイオマスプラスチックを除いた量)	—	89.7	75.5	87.3	56.8
削減量(t) (バイオマスプラスチックを除いた量)	—	9.2	19.6	7.7	22.8
	—	—	—	7.8	23.7

※ 2022年度は目標

バイオマス素材の使用拡大

当社は2014年度から一部のPET容器入り商品において、植物等の再生可能な有機資源を原料とするバイオマスプラスチックを使用したシュリンクラベルの採用を進めています。2020年10月に「ヤクルトのはっ酵豆乳」において、バイオマスプラスチックを使用したストローおよびマルチシュリンクフィルムに切り替えました。

また、これまで一部のPET容器入り商品のシュリンクラベルに使用していたバイオマスインキの使用拡大を図っています。2021年度は「ミルージュ」等5品目のシュリンクラベルにバイオマスインキを採用しました。バイオマスプラスチック、バイオマスインキを採用した商品は、一般社団法人日本有機資源協会から生物由来の資源(バイオマス)を活用して品質および安全性が関連する法規、基準、規格等に適合していると認定を受け、「バイオマスマーク」を表示しています。

シュリンクラベルの薄肉化

2021年度に「ヤクルト蕃爽麗茶」(500ml)等4品目のPET容器入り商品のシュリンクラベルの厚さを50 μ mから45 μ mに薄肉化したものへ変更しました。

再生PETラベルの使用拡大

回収PETボトルを再利用した原材料を25%使用した再生PETラベルの使用拡大を図り、「お茶」(280ml)等3品目のPET容器入り商品で採用しました。再生PETラベルを採用した商品は、PETボトルリサイクル推進協議会の認定を受け、「PETボトルリサイクル推奨マーク」を表示しています。



バイオマスマーク

生物由来の資源(バイオマス)を利用して、品質および安全性が関連法規、基準、規格等に適合する商品と認定された商品につけられるマークです。

PETボトルリサイクル推奨マーク

使用済みPETボトルのリサイクル品を使用した商品につけられるマークです。

アールプラスジャパンへの資本参加

当社は、プラスチックに関わるさまざまな社会課題の解決に貢献するため、共同出資会社(株)アールプラスジャパンに資本参加しました。同社は、環境負荷が少なく効率的な使用済みプラスチックの再資源化の技術開発を進める企業です。

ヤクルトでは、資源循環しやすい素材への転換の推進や、容器包装のプラスチック使用量の削減等の取り組みについて、検討を重ね推進しています。

今後は、アールプラスジャパンの取り組みを通じて、使用済みプラスチックの再資源化にも取り組んでいきます。

プラスチック使用量の削減

■「Newヤクルト」類の対応(日本)

「Newヤクルト」類においては、5本パックにはストローを貼付し、10本パックには貼付しないことで、お客さまがストローの有無を選択できるようにしていましたが、2021年3月に策定した「ヤクルトグループ環境ビジョン」の達成に向け、プラスチック容器包装の使用量削減および資源循環可能な素材への転換の施策の一環として、「Newヤクルト」「同 カロリーハーフ」の5本パックへの単式ストロー貼付を廃止しました。

「Newヤクルト」用5本パック正面左上の表示

変更前



変更後



■ プラスチック包装から紙製包装へ(ヨーロッパヤクルト)

ヨーロッパヤクルトでは、ヤクルト類のマルチパック用の包装と、運搬用の外装を、プラスチック製フィルムから紙製の包装に切り替えを進めています。オランダ、ドイツ、オーストリア、ベルギー、フランス、スペインに加え、2020年末からイタリア、マルタで紙製包装に切り替えたことで、2021年はプラスチック使用量を約15t削減しました。2023年4月からは全商品を紙製包装化する予定です。

また、ブラジルヤクルトでは、2022年9月の生産設備の更新を機にプラスチックストローを紙ストローに変更する準備を進めています。



拡大する紙製包装

■ プラスチックごみの回収(インドネシアヤクルト)

インドネシアヤクルトは2021年7月、同国政府が2029年にプラスチック等のごみ総量の30%削減を定めた「生産者によるごみ削減計画」に基づいてプラスチックごみの回収活動を開始しました。計画の達成に向けたロードマップと毎年のごみ削減量の目標を政府に提出するとともに、2021年7月からヤクルト50本を包装するプラスチック製の再シュリンクフィルムをヤクルトレディと直販ルートマンが回収するテストを開始、20,128kgを回収しました。

また、ヤクルトの容器についても2021年10月から回収試験を開始しています。



再シュリンクフィルムを分別している様子



ヤクルトの容器を回収